

5領域とのつながりを明確化した支援内容

星とたんぽぽ

星とたんぽぽいっぼずつ

健康 生活	①健康状態の維持・改善	登所時の検温、健康観察、聞き取りを行い、健康不良時の把握を、いち早く行う。また、自らの体調について意識づけを行ったり、相手にそれを伝えられるようにしていく。 健康を維持していくために、食べる事、清潔にすること、排泄、体を動かすこと等、意識できるようにしていく。また、支援者と共に計画を立てていくなどして継続的にできるようにする。
	②生活リズムや生活習慣の形成	一日の生活を規則正しくするための、スケジュールの確立、また、そこを、どう変えていくかを支援者や保護者と共に話し合い、変更する。 登所した時、おやつの前、トイレに行った後の手洗い、おやつを食べた後のうがいや口の周りの確認、トイレ後の衣服の乱れを直す等、事業所の中での習慣と共に、家庭での生活習慣も見直し、その子に合わせた手順書やリマインダー等準備し、確立させていく。
	③基本的な生活スキルの獲得	食事の時のスプーンや箸、食器の持ち方、姿勢、着脱、片付け、身だしなみ等、その子の発達段階や学習スタイルを考えた個別の支援をしながら、確立に向けていく。 その子の特性を見極め、手順表を作成したり、リマインダーを設置するなど、生活スキルの確立、定着を図るための特性に応じたツールを作成し、家庭とも協力していく。
運動 感覚	①姿勢と運動、動作の向上	個別支援や、小集団活動で、椅子に座る場面での、正しい姿勢と、その保持について習慣づけていく。ただし、そのことだけに集中して、他のことが意識しづらい子どもには、話を聞くことを第一の課題とすることを家庭にも理解していただく。 押す、引っ張る、それを続ける力、トランポリン、ゴーストップ、雑巾がけ、跳ぶ、くぐる、投げる 等体幹や筋力を鍛える遊びに取り組み、姿勢の保持ができるようにしていく。
	②姿勢の保持と運動。 動作の補助的手段の活用	足置きを置く、背中を支えるマットを入れる、等補助的手段が必要な子どもには、家庭と相談して導入する。 運動をする時など、滑らないマットを敷くなどしていく。
	③保有する感覚の活用	視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して、遊具や器具を使った遊びを楽しく提供する。 目と手の協応動作、目と手足のタイミングなどを合わせた遊びを楽しみながら提供していく。本来苦手な縄跳びやボール遊びなどを通して、タイミングや見る位置など段階に応じてスモールステップで教えていく。
	④感覚の特性（過敏や鈍麻）への対応	一人一人の感覚の特性に応じ環境調整（部屋の明るさ、音の調整、視覚刺激の調整、温度調節、部屋の白さの調整）や個々に対する補助具の使用を考える。（イヤマフ、感覚グッズ、保冷剤等）
認知 行動	①感覚や認知の活用	障害特性に応じて必要な情報を収集しやすいよう、絵カード、文字カード、色や音を利用したキュー、必要な道具を使い認知機能の発達を促す支援を行う。
	②知覚から行動への認知過程の発達	個別支援の中で、見える化されたルールブックやメンバー表などを見る練習から始め、小集団の中に般化し、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう、一連の認知過程の発達を支援する。
	③数量、大小、色、空間概念、時間等の習得	初めに、一人ひとりのあらゆる方面の認知レベルについて評価をし、スモールステップでの積み上げをして確立させていく。何を使って確立させるかも、本人の強化子や学習スタイルを十分に理解したうえで、「できた」「経験できた」を積み重ねていく。 空間、時間、形、色、大きさ、反対の概念、等、その子どもに必要な、めばえのところから始め、「できた」を積み重ねていく。
	④認知の偏りへの対応	こだわりや認知の偏りについては、その障害特性を理解し、本人にとって、苦しいもの、早く支援を行った方がよいことから、家庭と相談しながら無理なく進めていく。
	⑤対象や外部環境の適切な行動の習得	SSカードやソーシャルストーリー等、その子どもに合う手法を使って、個別の中で指導をして、それを少しずつ違う支援者や友達の広げていくなど段階を踏んで指導していく。
言語 コミュニケーション	①言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等、体系的な言語の習得、自発的な発言を促していく。また、話しことばだけでなくカード等で相手に伝わった喜びを味わう。
	②言語の受容と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字やカードやコミック会話、思いをイラストで描いていく、言語またはそれに代わるもの等を用いて、相手に思いを伝えたいということを大切にしていく。
	③コミュニケーションの基礎的能力の向上	個別でしっかりと支援をし、コミュニケーションの基礎能力を付けた後は、友達や小集団でのコミュニケーション能力の向上のための支援をしていく
	④コミュニケーション手段の選択と活用	PECS、筆談等を通して、話し言葉のみでなく、色々な方法でのコミュニケーションの手段を獲得し、思いが相手に伝わらないいらいだちを予防し、意思の疎通をしていく事の喜びを味わえるようにしていく。
	⑤読み書きの向上のための支援	強化子を用いたカルタや絵カード、手紙ごっこ等を利用し、楽しみながら、色々な字や記号に興味を持ち、読んでみようとしたり、線遊びから、無理なく少しずつひらがなやカタカナの文字を書いてみようとする。
人間関係 社会性	①他者との関わり（人間関係）の形成	まずは、支援者と、一緒に楽しく遊ぶ、要求を満たしてあげる（わがままなことの見極めはつけながら）等して、信頼関係を築いていく。また、親子の愛着関係が基礎になることを鑑みて、保護者との話や相談を通して、それが正しく築くことができるよう導いていく。そこから、少しずつ、友達との関わりに進んでいく。
	②自己の理解と行動の調整	自己の特性について知り、こだわり等でそれから離れられない時など、どうしていくかを支援者と考えあったり、カームダウンの方法や、深呼吸、他のことで気をそらせる等信頼できる支援者と一緒に行動の調整ができるようにしていく。
	③仲間づくりと集団への参加	一人遊び、並行遊び、好きな遊びを通じて少しずつ友達とかかわる、玩具の共有、貸し借り、順番、譲る、協力、役割分担、負けの受け入れ、お互いの思い等、有効な支援方法により、少しずつ小集団の中でできるようにしていく。友達と一緒にいることが楽しい、という感覚が持てるようにしていく。